

1 次の各問に答えよ。(それぞれ正答 2 つ選択した場合 10 点。ただし正答 1 つのみ、または正答 1 つと誤答 1 つずつ選択した場合は部分点 5 点。)

(1) 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & -2 & 1 & 1 \\ 0 & 2 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & 1 & 0 \\ -3 & 2 & -2 & -1 \end{pmatrix}$ から定まる線形変換 $T_A: \mathbf{R}^4 \rightarrow \mathbf{R}^4$ に対し、その核 $\text{Ker}(T_A)$ に含まれるベクトルを次の (ア) ~ (エ) の中からすべて選びなさい。

$$(ア) \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix} \quad (イ) \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix} \quad (ウ) \begin{pmatrix} -2 \\ -1 \\ 2 \\ 0 \end{pmatrix} \quad (エ) \begin{pmatrix} 0 \\ -1 \\ 2 \\ -2 \end{pmatrix}$$

v が T_A の核に含まれるとは $Av = \mathbf{0}$ となることである。

(1) イ, ウ

(2) $v = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 2 \end{pmatrix}$ とする。3次元数ベクトル空間 \mathbf{R}^3 上の標準内積に関して、 v と直交するベクトルを次の (ア) ~ (エ) の中からすべて選びなさい。

$$(ア) \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 0 \end{pmatrix} \quad (イ) \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} \quad (ウ) \begin{pmatrix} -2 \\ 2 \\ 2 \end{pmatrix} \quad (エ) \begin{pmatrix} 0 \\ -2 \\ -1 \end{pmatrix}$$

v との内積 (\mathbf{R}^3 の標準内積) をとって、0 になるものを選ばよ。

(2) ウ, エ

(3) 次の (ア) ~ (エ) の中から直交行列をすべて選びなさい。

$$(ア) \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix} \quad (イ) \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -1 & 1 \end{pmatrix} \quad (ウ) \begin{pmatrix} \sqrt{3}/2 & -\sqrt{3}/2 \\ 1/2 & 1/2 \end{pmatrix} \quad (エ) \begin{pmatrix} \sqrt{3}/2 & -1/2 \\ 1/2 & \sqrt{3}/2 \end{pmatrix}$$

各行列 A に対し、 tAA を計算すればよい。単位行列 I_2 となったものが直交行列である。また、列ベクトルの組が正規直交基底になっていれば直交行列である。

(3) ア, エ

(略解とコメント)

2 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}$ とする. \mathbf{R}^2 の基底 $\mathbf{a}_1 = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\mathbf{a}_2 = \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \end{pmatrix}$ に関する線形変換 $T_A: \mathbf{R}^2 \rightarrow \mathbf{R}^2$ の表現行列 B を求めなさい. (20 点)

- $(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2) = (\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2)P$ のとき, $\{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2\}$ に関する T_A の表現行列 B は $B = P^{-1}AP$ である (系 3.3).
- 公式 $B = P^{-1}AP$ を記述している者には部分として 10 点与えた.
- 逆行列の計算を間違えている者がいた.

2

$$B = \frac{1}{3} \begin{pmatrix} 14 & 2 \\ 16 & 1 \end{pmatrix}$$

3 3次元ベクトル空間 \mathbf{R}^3 の基底 $\mathbf{v}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\mathbf{v}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\mathbf{v}_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ に対して, グラム・シュミットの直交化法を適用し, \mathbf{R}^3 の標準内積に関する正規直交基底を作りなさい. (20 点)

- まず以下を計算する;

$$\mathbf{u}_1 = \mathbf{v}_1, \quad \mathbf{u}_2 = \mathbf{v}_2 - \frac{\langle \mathbf{v}_2, \mathbf{u}_1 \rangle}{\|\mathbf{u}_1\|^2} \mathbf{u}_1, \quad \mathbf{u}_3 = \mathbf{v}_3 - \frac{\langle \mathbf{v}_3, \mathbf{u}_1 \rangle}{\|\mathbf{u}_1\|^2} \mathbf{u}_1 - \frac{\langle \mathbf{v}_3, \mathbf{u}_2 \rangle}{\|\mathbf{u}_2\|^2} \mathbf{u}_2.$$

以上で直交系 $\{\mathbf{u}_i\}$ ができた. 最後に正規化 (ノルムが 1 になるように定数倍) すればよい.

- 上の 3 つ目の式において \mathbf{u}_2 で計算するところを \mathbf{v}_2 のまま計算している者がいた.
- 正規化されてない (または正規化するところで計算ミス) 場合は部分点として 10 点与えた (つまり直交系をつくれれば 10 点).
- できあがったベクトル達が互いに直交しているか, またノルムが 1 になっているか, 簡単な計算で確かめられる.

3

$$\frac{1}{\sqrt{3}} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad \frac{1}{\sqrt{6}} \begin{pmatrix} -1 \\ 2 \\ -1 \end{pmatrix}, \quad \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

4 内積空間に関する次の 3 つの命題 (ア) (イ) (ウ) の中から 1 つの命題を選び, それを証明しなさい. (20 点)

(ア) 任意の $\mathbf{v}, \mathbf{w} \in V$ に対し, $|\langle \mathbf{v}, \mathbf{w} \rangle| \leq \|\mathbf{v}\| \cdot \|\mathbf{w}\|$ が成り立つ. 定理 4.1

(イ) V の任意の直交系 $\{\mathbf{v}_i\}_{i=1, \dots, k}$ は線形独立である. 定理 5.1

(ウ) 任意の $\mathbf{v} \in V$ に対し, V の線形変換 T が $\|T(\mathbf{v})\| = \|\mathbf{v}\|$ を満たすならば, T は直交変換である. 定理 6.1